

群 教 七	G 02 - 02
	平 16. 221集

地域の社会的事象と自分の生活を関連付けてとらえる力を育てる社会科指導の工夫

- かかわり図から考える活動を通して -

特別研修員 松村 久美 (群馬町立上郊小学校)

《研究の概要》

本研究は、小学校社会科における問題解決的な学習の過程に、かかわり図から考える活動を取り入れることで、地域の社会的事象と自分の生活を関連付けてとらえる力を育てることを目指したものである。地域の人々が自分の生活を支えていることをとらえ、地域のために、自分にもできることを考える。これらの活動を通して、地域の社会的事象と自分の生活について、自分なりの新しい見方ができるように、指導の工夫を行った。

【キーワード：社会 - 小 社会科教育 問題解決学習 地域社会 かかわり図】

主題設定の理由

今日の社会科教育では、これまでの体系化された知識重視の教育から、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの育成を重視する方向への転換が求められている。そのため、社会的事象に関心をもって問題を見だし、自ら追究方法を考え、自分の目で確かめながら解決していく問題解決的な学習が有効であり、その学習の過程で、子どもたちは、社会的なものの見方や考え方を身に付けていく。社会的なものの見方や考え方の一つとして、社会を自分とのかかわりでとらえることが挙げられる。社会科の学習を通して、社会と自分とのかかわりについて、自分なりの新しい見方ができるようにしていくのである。3、4年生の社会科は、地域社会と自分とのかかわりについて学ぶ。そして、地域の社会的事象が自分の生活に深くかかわり、自分の生活を支えていることを理解する。

子どもたちは、教材に直接かかわり体験することが大好きで、地域の社会的事象について、その仕組みや人々の活動の様子を、意欲的に観察したり調べたりすることができる。そして、多くの事実に気付いたり、分かったことを自分なりにまとめたりしている。しかし、新たな知識を得たりまとめたりしたことで満足してしまい、そこから、人々の工夫や努力に込められた思いや願いを見だし、自分の生活とのかかわりを考えるまでには、なかなか至らない。社会的事象のとらえ方を、「仕組みを知っている」「人々の工夫や努力が分かった」から、「なぜ、そのような仕組みになっているのだろう」「何のために工夫や努力をしているのだろう」にまで深め、地域の社会的事象が自分の生活を支えていることを実感させたい。それと同時に、地域社会に自ら働きかけ、社会的事象と自分の生活には双方向のかかわりがあること、つまり、社会的事象と自分の生活を関連付けてとらえられるようにしていきたい。

そこで本研究では、地域の社会的事象を、自分の生活とのかかわりでとらえることができるように、かかわり図から自分の生活について考える活動を導入した。社会的事象と自分の生活とのかかわりについて、子どもにとらえ方が、「社会的事象からのかかわりに気付く」「社会的事象からのかかわりの意味(人々の活動、工夫や努力、協力)をとらえる」「社会的事象と自分の生活との双方向のかかわりをとらえる」の順で深まっていくと考え、それぞれの段階で、自分の思考を整理したかかわり図から自分の生活について考える活動を取り入れた。

このような活動を取り入れることにより、地域社会と自分の生活とのかかわりについて、自

分なりの新しい見方ができるようになると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

問題解決的な学習の過程で、かかわり図から考える活動を取り入れることが、地域の社会的事象と自分の生活を関連付けてとらえる力を育てるために有効であることを、実践を通して明らかにする。

研究の見通し

問題解決的な学習の過程に、次のような活動を取り入れれば、地域の社会的事象と自分の生活を関連付けてとらえる力を育てることができるであろう。

- 1 つかむ過程において、自分とのかかわりが予想される社会的事象を表したかかわり図から自分の生活について考える活動を行えば、地域の社会的事象が自分の生活を支えていることに気付くことができるであろう。
- 2 追究する過程において、調べて分かったことや地域の人々の思いや願いを表したかかわり図から自分の生活について考える活動を行えば、地域の様々な社会的事象や地域の人々の工夫や努力、協力が自分の生活を支えていることをとらえることができるであろう。
- 3 深める過程において、地域社会に対する自分の思いを表したかかわり図から自分の生活について考える活動を行えば、地域の社会的事象と自分の生活を関連付けてとらえることができるであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 地域の社会的事象と自分の生活を関連付けてとらえるとは

地域の社会的事象とは、子どもにとって、距離的にも心情的にも身近に感じることでできることやもの、人のことである。地域の社会的事象と自分の生活を関連付けてとらえるとは、地域の社会的事象と自分の生活との双方向のかかわりをとらえることである。つまり、地域の社会的事象が自分の生活を支えていることを実感したり、自分も地域社会の一員として、地域のために努力しようとする自覚をもったりすることである。


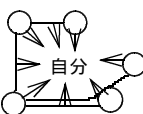

(2) かかわり図から自分の生活について考える活動とは

かかわり図とは、地域の社会的事象と自分の生活とのかかわりや、社会的事象どうしのかかわりを表した図である。経験や知識からとらえているかかわりや、新たに見いだしたかかわりを図に表すことによって、子ども一人一人の思考過程が明らかになり、思考が整理される。そして、かかわり図をもとに、自分の生活がどのようにして成り立っているのかを考えることで、地域社会と自分とのかかわりについて、自分なりの新しい見方ができるようになると考える。

2 研究の方法

研究の見通しに基づき、以下の計画で授業実践を行い、検証する。

(1) 授業実施計画と検証計画

対象	群馬町立上郊小学校4年1組(30名)	単元名	交通事故から人々を守るために
実施期間	平成16年10月15日～11月18日(全10時間)		
検証項目	検証の視点		検証の方法
見通し1	つかむ過程において、交通事故から自分を守っているものを予想して表したかかわり図から、自分の生活について考える活動を取り入れることは、地域の社会的事象が自分の生活を支えていることに気付くために有効であったか。		・かかわり図 ・観察
見通し2	追究する過程において、交通事故から人々を守るための活動について調べて分かったことや、人々の思いや願いを表したかかわり図から、自分の生活について考える活動を取り入れることは、地域の様々な社会的事象や人々の工夫や努力、協力が自分の生活を支えていることをとらえるために有効であったか。		・かかわり図 ・観察
見通し3	深める過程において、地域の交通安全のために自分にできることを表したかかわり図から、自分の生活について考える活動を取り入れることは、社会的事象と自分の生活を関連付けてとらえるために有効であったか。		・かかわり図 ・観察

(2) 抽出児童について

A子	理解力があり、意欲的に調べたり、調べたことから、地域の社会的事象が自分たちの健康や住みよい環境を支えていることを考えたりすることができる。今後は、よりよい地域社会のために自分にできることを進んで考えさせ、地域社会の一員としての自覚を高めさせたい。
B子	地域の社会的事象の意味や役割を理解できるが、社会的事象どうしの関係を考えたり、人々が工夫や努力をして自分の生活を支えていることをとらえたりすることが苦手で、社会的事象と自分の生活とのかかわりのとらえ方が断片的である。地域の社会的事象と自分の生活とのかかわりを、総合的にとらえさせたい。

研究の展開

1 単元の考察と目標、評価規準

単元の考察	本単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の目標の(1)(3)、内容の(4)を受けて設定したものである。本単元では、まず、つかむ過程で交通事故を自分の問題としてとらえる。次に、追究する過程で見学や調査などの活動を取り入れ、自分の目で確かめたり、人々の思いや願いに触れたりしながら、交通事故が起こったときの緊急体制や交通安全を守るための活動について追究する。さらに、深める過程で地域の安全のためにできることを考え、地域の一員としての自覚を高めていく。	
目標	人々を交通事故から守るために、警察や関係機関が協力して緊急に対処する体制をとっていることや、そこに従事している人々や地域の人々が様々な工夫や努力をしていることを、見学や調査を通して考えるとともに、自分も地域社会の一員として、進んで交通安全に協力しようとする気持ちをもつ。	
評価規準	おおむね満足できる	十分満足できる
	【社会的な思考・判断】	
	交通事故防止や交通事故が起こった時の緊急体制に関心をもち、警察や関係機関などの安全に対する取組について、意欲的に調べ、自分も地域社会の一員として、交通安全に心掛けている。	交通事故防止や交通事故が起こった時の緊急体制に関心をもち、警察や関係機関などの安全に対する取組について、疑問点や調べたいことを進んで考え発言し、意欲的に調べるとともに、自分も地域社会の一員として、交通安全のためにできることを進んで考え発言し、呼びかけている。
	交通事故から人々を守るための活動について問題意識をもち、観点をはっきりさせながら調べたり、人々の安全を守るための警察や関係機関の働きとそこに従事している人々、地域の人々の工夫や努力を、自分の生活とのかかわりで考えたりしている。	交通事故から人々を守るための活動について問題意識をもち、疑問点や分からないことを整理して観点をはっきりさせながら解決への見通しをもって調べたり、人々の安全を守るための警察や関係機関の働きとそこに従事している人々、地域の人々の工夫や努力を、自分の生活とのかかわりで総合的に考えたりしている。
【観察・資料活用】		
調べて分かったことを、自分とのかかわり図にかかわり図に表したり、交通事故への対応や交通安全を守るための活動について、分かりやすくまとめたりしている。	調べて分かったことを、交通安全を守る活動をしている人々の思いや願い、自分とのかかわり図などを詳しく記述しながらかかわり図に表したり、交通事故への対応や交通安全を守るための活動について、図表やイラストなどを効果的に使って分かりやすくまとめたりしている。	
【社会的事象についての知識・理解】		
人々の安全を守るための警察や関係機関の緊急体制、また、そこに従事する人々や地域の人々の工夫や努力、協力を理解している。	人々の安全を守るための警察や関係機関の緊急体制の仕組み、また、そこに従事する人々や地域の人々の工夫や努力、協力を具体的に、且つ正確に理解している。	

2 指導と評価の計画(全10時間予定)

過程	時間	主な学習活動・内容	形態	評価項目(観点・評価方法)
つかむ	1	見通し1 地域における交通事故の実態を知り、学習課題をつかむ。 自分の安全を守っているものを予想してかかわり図に表し、自分の生活について考える。	一斉 個人 一斉	交通安全についての関心を高めている。(関・観察) 交通事故から人々を守るために活動している機関や人々が、自分の安全を守っていることに気付く。(思・かかわり図、観察)
	2	交通事故が起こったときの緊急体制、交通事故から人々を守る活動や施設についての疑問点や調べたいことをはっきりさせる。	一斉 個人 一斉	疑問点や調べたいことを明確にして、自分なりの調べる観点をはっきりさせている。(思・調べカード)
追	3	交番の見学、ゲストティーチャーからの聞き取り、上郊小安全マップ作成などを通して、交通事故が起こったときの緊急体制や交通安全を守るための人々の活動、施設などについて調べる。	個人 グル 一斉	意欲的に調べている。(関・観察) 大切なことを落とさずに記録している。(技・調べカード)
	4	調べて分かったことをかかわり図に付け足す。	個人 グル 一斉	交通安全を守るための施設の意味や働きが分かる。(知・調べカード、安全マップ、観察)
究	5	見通し2 交通事故から人々を守るための協力について、かかわり図に表し、自分の生活について考える。	個人 グル 一斉 個人	交通安全を守るための協力を、かかわり図に表している。(技・かかわり図) 様々な機関や人々の工夫や努力、協力が自分の安全を守っていることをとらえる。(思・かかわり図、観察)
	6	「交通事故が起こったら」「交通事故を防ぐために」「交通安全を呼びかける」の3観点で、調べて分かったことをまとめる。	個人	分かりやすくまとめている。(技・プリント) 交通安全を守るための様々な活動や、人々の工夫や努力、協力が分かる。(知・プリント、観察)
深める	7	見通し3 地域の交通安全のためにできることを、かかわり図に表し、自分の生活について考える。	個人 一斉 グル	交通事故から人々を守るための活動と自分の生活には、双方向のかかわりがあることを総合的にとらえている。(思・かかわり図、観察)
	8	地域の交通安全のための実践の準備をする。	個人 グル	地域社会の一員として、交通安全に心掛けようとする。(関・ワークシート、観察)
	9	実践したり、実践の概要について発表したりする。		
	10			

研究の結果と考察

1 つかむ過程において、交通事故から自分を守っているものを予想して表したかかわり図から、自分の生活について考える活動を取り入れることは、地域の社会的事象が自分の生活を支えていることに気付くために有効であったか

交通事故から自分を守っているものを予想し、かかわり図に表した。中心を自分として、予想したものを周りに記入し、「守っている」という意味を自分に向かう矢印で表した。

A子は、「警察」「救助をする人」「パトロールの人たち」「踏切」「信号機」「カーブミラー」の6つを挙げた。それぞれの活動内容や役割も書かれていたことから、自分の生活に実際にかかわっている場面が、具体的に浮かんだものと思われる。友達の発表を聞くと、「ああ、そうか」とつぶやいたりうなずいたりしながら「横断歩道」や「先生」などを付け足した。B子は、始め、人に意識が向いており、「地域の人」「旗振りの人」「警察の人」の3つを挙げた。しかし友達の発表を聞くと、人以外にも、自分を守っているものがあることに気付き、「ふみきり」「信号」などの施設を付け足した。学級全体では、他に「救急車」「パトカー」「交通安全教室」などが挙がり、全部で15になった。

次に、かかわり図をもとに自分の生活について考える活動を行った。「自分が安全に生活できているのはなぜだろう」と投げかけ、かかわり図の下に設けた記述欄に、自分の考えを記述させた。資料1、2からは、自分の予想以外にもたくさんあることに気付いたA子の様子や、人だけでなくものなどもあることに気付いたB子の様子がうかがえる。学級全体では、ほかに「交通事故が起きてから守ってくれているものもあれば、交通事故が起きないようにしているものもある」「警察に関係する

資料1 A子の記述

(10/15)

1. 思いきりた50. 交通事故から私たちが守られている。いろいろな物も、車が走っているのは、あまり知らなかった。びっくりしました。

資料2 B子の記述

(8/15)

交通事故からわたしたちを守っている物、人。なかみまわりには、はいあってびっくりしました。

ものもあれば、学校に関係するものもある」のような考えも挙がった。

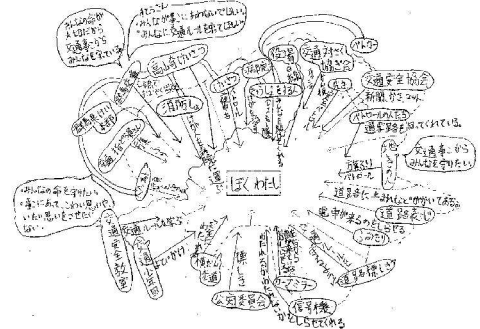
これらのことから、つかむ過程において、自分の安全とのかかわりが予想される機関や人々、またそれらの活動を表したかかわり図から、自分の生活について考える活動を取り入れることは、地域の社会的事象が自分の生活を支えていることに気付くために有効であったと考える。

2 追究する過程において、交通事故から人々を守るための活動について調べて分かったことや、人々の思いや願いを表したかかわり図から、自分の生活について考える活動を取り入れることは、地域の様々な社会的事象や人々の工夫や努力、協力が自分の生活を支えていることをとらえるために有効であったか

見学や学区の施設調べなどを通して、子どもたちは、人々が交通安全のために工夫や努力をしながら活動していること、自分たちが知らなかったり気付かなかったりした活動があること、人々が交通安全のために協力していることなどを学んだ。そして、新たに分かった活動、人々の思いや願いなどを、見通し1で作成したかかわり図に付け足した。

A子は、交番を見学したり役場の方の話の聞いたりして、群馬町交番が高崎警察や県警本部と協力体制をとり、交通事故に素早く対応していることや、その活動の中に様々な工夫や努力があることに気づき、「高崎警察」「群馬県警本部」「無線で素早く伝える」とかかわり図に付け足した。また、警察以外の機関も付け足したり、「よびかけ」「通学路を回ってくれる」と加えたりした。さらに、出会いの場を設定していない地域の人々の思いや願いも付け足していることから、A子の思考が、人々の活動、工夫や努力に込められた思いや願いにまで深まったと考えられる。協力については「交通事故が起こったら」「交通事故を防ぐため」「交通安全を呼びかけるため」の3つの観点を示し、協力しているものどうしをそれぞれ「＝、～、---」でつなぐように投げかけた。A子は、人々の活動を思い起こしたり調べたメモを見返したりしながら、協力しているものどうしをどんどん線で結んでいき、資料3のようなかかわり図が表せた。

資料3 A子のかかわり図



B子は見学や聞き取りで知った「公安委員会」や、学区の施設調べで気付いた「縁石」を付け足したり、保護者が交代で旗振りを行っていることを思い起こして「交代で旗振り」と加えたりした。また「警察もいろいろあるね」と声掛けすると「高崎警察と県警本部がある」と言ってそれぞれ付け足した。協力については、自分で結んだもののほかに、友達の発表を聞きながら「旗」と「役場」「交通指導員」と「先生」を結び、資料4のようなかかわり図が表せた。

資料4 B子のかかわり図



A子もB子も、調べてわかったことをかかわり図にまとめることで、人々の活動、工夫や努力、協力を再認識することができた。また、自分に向かうたくさんの矢印から、多くの人々によって、自分の安全が守られていることを実感することができた。

自分の生活について考える活動では、「自分が安全に生活できているのはなぜだろう」と投げかけた。A子は「事故にあわないで生活していられるのは、交通指導員さんや先生、役場の人や警察の人たちが呼びかけや旗振り、パトロールなどを協力してくれているおかげです」と記述し、B子は、「わたしたちを守ってくれているもの、人、機関などがいっぱいあって24時

間がんばってくれているからわたしたちは安全に暮らせる・・・協力して守ってくれていることがわかった」と記述した。

これらのことから、追究する過程において、交通事故から人々を守るための活動について調べて分かったことや、人々の思いや願いを表したかかわり図から、自分の生活について考える活動を取り入れることは、地域の様々な社会的事象や人々の工夫や努力、協力が自分の生活を支えていることをとらえるために有効であったと考える。

3 深める過程において、地域の交通安全のために自分にできることを表したかかわり図から、自分の生活について考える活動を取り入れることは、社会的事象と自分の生活を関連付けてとらえるために有効であったか

交通安全のために自分にできることを考え、それらを付箋に書いて、かかわり図の中心に貼っていった。「自分にできることを考えよう」と投げかけると、A子は、すぐに「事故を防ぐために交通ルールをちゃんと守る」と書き、その後は考えながら「感謝の気持ちを表すために心を込めて元気よく挨拶する」「呼びかけの作文を書く」など、5つの考えを挙げた。このように、A子は様々な観点から挙げており、地域の交通安全のためにできることを、意欲的に考えることができたと考える。B子は、初めに「交通指導員さんにお礼や挨拶を言う」「旗振りの人にお礼を言ったり大きな声で挨拶する」を挙げた。安全を守るための活動をしている人に対して、感謝の気持ちをもつことができた。その後は、交通ルールを守ることに意識が向き「飛び出しをしない」「一列で歩く」を挙げていた。交通安全に対する自覚が高まった様子が見える。学級全体では「危険なことをしている子に注意をして交通安全を呼びかける」「交通安全ポスターをかく」などの考えも挙がった。そして、付箋から周囲に向かう矢印を加えると、かかわり図の中は、自分に向かう矢印と自分から周囲に向かう矢印でいっぱいになった。

自分の生活について考える活動では、「自分の安全な生活をどうやって作っていったらよいだろう」と投げかけた。資料5、6に見られる「助け合ったり」「守ったり守ってあげたり」などの記述から、A子もB子も、双方向のかかわりをとらえることができたといえるだろう。

これらのことから、深める過程において、地域の交通安全のために自分にできることを表したかかわり図から、自分の生活について考える活動を取り入れることは、社会的事象と自分の生活を関連付けてとらえるために有効であったと考える。

資料5 A子の記述

資料6 B子の記述

(11/15)
交通ルールをちゃんと守って、自分からも作文を書いたりして、事故の被害を減らしていきたいです。信号機をしっかりと守ることもしたいです。呼びかけをしていてくれる人たちに心を込めてあいさつをしたり、みんなが助け合ったりして、安全な生活を送りたいです。

(12/15)
わたしたちが先生や交通指導員さんたちに守ってもらっているから、わたしたちも交通ルールを守れば安全に生活できると思います。助けあって守ったり、守ってあげたりしてあげられることか、あがった。

研究のまとめと今後の課題

かかわり図に、地域の社会的事象が自分の生活を守っていることを自分に向かう矢印で表し、自分にできることを自分から周囲に向かう矢印で表すことで、自分が様々な機関や人々に守られて生活していることを実感したり、交通安全に気を付けようとする気持ちを高めたりすることができた。また、双方向のかかわりにも気付くことができた。

人々が協力して自分を守っていることは実感できたが、工夫や努力についての実感が弱かった。調べる活動においてとらえた人々の工夫や努力を、かかわり図に表すことができるような手だてが必要であると考えられる。

参考文献

・北 俊夫 著 『社会科の授業と評価(3・4年下)』 教育出版(2002)